

◆第 32 回東京国際映画祭



登壇者：左から安藤紘平氏、山田洋次監督、久松猛朗氏 ©2019 TIFF



質疑応答に答える山田洋次監督 ©2019 TIFF

◆第 32 回東京国際映画祭 オープニング作品  
『男はつらいよ お帰り 寅さん』山田洋次 監督登壇！

2019年10月3日、公益社団法人日本外国特派員協会(FCCJ)において第32回東京国際映画祭、オープニング作品『男はつらいよ お帰り 寅さん』登壇者：山田洋次監督、久松猛朗(東京国際映画祭 フェスティバルディレクター)、安藤紘平(「JAPAN NOW」部門プログラミングアドバイザー)の記者会見が行われた。

本年度の東京国際映画祭のオープニング作品の『男はつらいよ お帰り 寅さん』。第一作目の公開から今年で50年を迎え、シリーズで50作目となる、『男はつらいよ』の奇跡の最新作が東京国際映画祭の開幕を飾ることが決定した。

この度、日本外国特派員協会にて毎年開催している、東京国際映画祭の記者会見に、山田洋次監督を迎えて、映画祭や作品に関する想いを語っていただきました。併せて、久松猛朗フェスティバル・ディレクターより、本年度の映画祭のハイライトについて解説。また、「Japan Now」部門プログラミング・アドバイザー 安藤紘平氏も登壇し、本年度の「Japan Now」部門や山田洋次監督に対する想いを語りました。

第32回東京国際映画祭では開催期間中、170本以上もの映画が上映予定、世界中から訪れた著名なゲストが多数登場し、Q & A やシンポジウムが開催されるなど、東京国際映画祭ならではのイベントが多数開催される。

**【山田洋次監督 コメント】**「半世紀以上にわたって、何十本の映画を作ってきました、だけど今度の映画を作るときに、初めてこんな映画をつくるんだと驚きました。いったいどんな映画になるのだろうという、不安と期待が撮影中、僕のなかにずっとあったのです。完成した後に、自分の映画を繰り返してみながら思ったことは、この映画を作るために50年の歳月が必要だったのだなということです。だから、長生きしたからこういう映画ができたのだなというのが今の感想です。」

**【フェスティバル・ディレクター 久松猛朗コメント】**「今年は令和

元年の開催で、10月22日には各国の王族の方などが多く日本に来る、そしてラグビーワールドカップが開催されている。来年の東京オリンピック、パラリンピックに合わせて、今世界中の注目が日本に集まっていると感じました。それで日本の映画祭で日本の特集をするのは一番いいタイミングかなと思っていて、この機会に日本の優れた映像文化を広く紹介していけたらいいなと思っています。」

**【安藤紘平 プログラミング・アドバイザー コメント】**「今の日本を代表する映画たちが、どんな日本の今とか、文化とか、日本の心、真の美意識、フィロソフィーを語ってくれるのかをお見せするのが「Japan Now」の部門の使命です。今回の山田洋次監督作品はオープニング作品にはぴったりで、『男はつらいよ お帰り 寅さん』は、今回本当に素晴らしい作品としてお見せできると思っております。」

今年の「Japan Now」部門はもう一人のレジェンドである大林宣彦監督を特集します。

大林監督はガンと3年前にがんを患いまして。その中で2年前『花筐／HANAGATAMI』という素晴らしい作品をつくられました。その後、病と闘いながら『海辺の映画館—キネマの玉手箱』を完成なさいました。素晴らしい作品です。これらを含めまして、「Japan Now」部門では大林監督の5作品と、加えて日本を代表する9作品、合計14作品を上映いたします。

山田監督への質疑応答

Q 第32回東京国際映画祭への期待についてなにかお話しただけですか。

A 色んな国に様々な映画があって、東京国際映画祭は日本を代表する映画祭ですよ。その東京国際映画祭の特徴は何か、魅力は何か、テーマを持つということがとても大事じゃないかと思う。そうゆう努力をし続けていって、この映画祭が世界のユニークな映画祭になるよう心から映画人の一人として思う。

Q 88歳でこの映画を作ることは本当に著しいことだと思いました。機会がありましたら、どんな映画を作りたいか考えたことはありますか(ロシアの記者より)

A 困ったな…自分の歳のことを考えると怖くてね。映画どころじゃねえよと思ったんです。

でもまあアメリカにはクリント・イーストウッドという監督がいるので頑張っているから、僕も一緒に頑張ろうかと思うんですですけど。ポルトガルのマノエル・デ・オリベ イラ監督、新藤 兼人監督は 100 歳まで映画を撮られたから、まだまだ希望は持っていんじゃないかな。

マノエル・デ・オリベイラ監督、新藤兼人監督は 100 歳まで映画を撮られたから、まだまだ希望は持っていんじゃないかな。

©2019 TIFF

## ◆第 32 回東京国際映画祭 開幕！ レッドカーペットとオープニングセレモニー

2019 年 10 月 28 日（月）、六本木ヒルズアリーナにて、第 32 回東京国際映画祭が開幕した！アリーナに敷かれた全長約 160m のレッドカーペット。

トップバッターには、今年のフェスティバル・ミュージズを務める広瀬アリスが、純白のミニ丈ドレスで登場。オープニング作品『男はつらいよ お帰り 寅さん』の山田洋次監督と倍賞千恵子さん、吉岡秀隆さんなど総勢 401 名のゲストが次々とカーペットを彩り、国内外のマスコミと観客計 2500 名で埋め尽くされたアリーナは熱気に包まれた。



今年のフェスティバル・ミュージズを務める広瀬アリス ©2019 TIFF

終盤には本年度のコンペティション部門審査委員長であるチャン・ツイイーが、黒のドレスに、シルバーのジュエリーを身に付けた姿で登場し、圧巻の美しさでレッドカーペットを飾った。

レッドカーペットイベント終了後、グランドハイアット東京にて行われたオープニングセレモニーでは、広瀬アリスが本年度の映画



オープニング作品から前田吟、浅丘ルリ子、倍賞千恵子、山田洋次監督、後藤久美子、吉岡秀隆、夏木マリの 7 名のゲストが登場した。©2019 TIFF

祭のみどころを MC と共に紹介。その後、オープニング作品から 7 名のゲストが登場しました。さらには、今年の審査委員が紹介され、セレモニーの締めとなる、コンペティション部門の審査委員長であるチャン・ツイイーの挨拶では、審査委員長を務めることに対する想いはもちろんのこと、ご自身の妊娠を発表するなど、素晴らしいスピーチを披露した。

■開催日：2019 年 10 月 28 日（月）①レッドカーペット 六本木ヒルズアリーナ開始、15：00～②オープニングセレモニー グランドハイアット東京 3F グランドボールルーム開始 18：00～

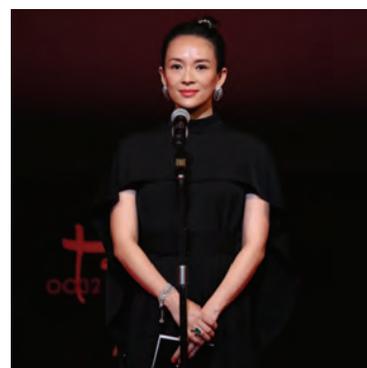
【オープニングセレモニー】登壇者萩生田光一 文部科学大臣 / 竹本直一 クールジャパン 戦略担当大臣 / 第 32 回東京国際映画祭 フェスティバル・ミュージズ：広瀬アリス / OP 作品『男はつらいよ お帰り 寅さん』より倍賞千恵子、吉岡秀隆、前田吟、後藤久美子、夏木マリ、浅丘ルリ子、山田洋次監督。アジアの未来部門 審査委員、中村義洋、ピムパカー・トーウィラ、エレナ・ポラッキ。日本映画 スブラッシュ部門 審査委員、クリスチャン・ジュンヌ、ナム・ドンチョル、大九明子。コンペティション部門国際審査委員 審査委員長、チャン・ツイイー（章子怡）。審査委員、ビル・ガーバー、ジュリー・ガイエ、マイケル・ノアー、廣木隆一

レッドカーペット参加ゲスト 国内外 401 名、レッドカーペット&セレモニーのご取材マスコミ数 約 624 名、レッドカーペット観客数 約 2,463 名、レッドカーペットの長さ計 160m、本年度の上映本数計 180 本。

【ゲストコメント】★第 32 回東京国際映画祭フェスティバル・ミュージズ 広瀬アリス：フェスティバル・ミュージズの広瀬アリスです。世界各国からたくさんの映画が上映されます。それはすごく素敵な時間だと思います。フェスティバル・ミュージズとして、今日から最終日まで東京国際映画祭を盛り上げていきたいと思っておりますので、どうぞ皆様 ぜひ楽しんでいってください。

★コンペティション部門 審査委員長 チャン・ツイイー：みなさん

こんばんは。私は中国の女優のチャン・ツイイーと申します。第 32 回東京国際映画祭審査委員長として、この場に立てることを光栄に思います。長年にわたりまして、この世界的にも有名な映画祭は世界の映画を愛する方々に新作をたくさん発信してまいりました。私はじめ審査員全員ですけれども、今年度このよ



コンペティション部門 審査委員長 チャン・ツイイー ©2019 TIFF

うな形で参加できることを喜んでおりますし、映画祭事務局に私どもを信頼して頂けることを大変感謝したいと思います。私ども審査委員は今回 14 本の映画を見るんですけれども、私のおなかの中には 30 週の赤ちゃんがおり、非常によい胎児教育になるのではないかと考えております。

## ◆第32回東京国際映画祭クロージングセレモニーと受賞者記者会見



クロージングセレモニーでの受賞者フォトセッション ©2019 TIFF

10月28日(月)に東京・六本木を中心に開幕したアジア最大級の映画祭・第32回東京国際映画祭が、11月5日、閉幕を迎え、東京国際フォーラムにてクロージングセレモニーを行った。ジュエーストーン賞や各部門における各賞の発表・授与、さらに小池百合子東京都知事も会場に駆け付け、【東京グランプリ】作品を受賞した『わたしの叔父さん』のフラレ・ピーダセン監督ヘトロフィー授与をおこなった。その後、各賞受賞者の方々と記者会見を行った。

登壇者：各賞の受賞者、コンペティション国際審査委員、小池百合子東京都知事、安藤裕康チェアマン、久松猛朗フェスティバル・ディレクター。東京ジュエーストーン賞受賞者、アメリカン航空アワード大学対抗ショートフィルムコンテスト受賞者。第32回東京国際映画祭 各賞受賞作品・受賞者

### コンペティション部門

- 東京グランプリ：『わたしの叔父さん』
- 審査員特別賞：『アトランティス』
- 最優秀監督賞：サイード・ルスタイ監督『ジャスト6.5』
- 最優秀女優賞：ナディア・テレスツイエンキーヴィツ  
『動物だけが知っている』
- 最優秀男優賞：ナヴィド・モハマドザデー『ジャスト6.5』
- 最優秀芸術貢献賞：『チャクトゥとサルラ』
- 最優秀脚本賞：『喜劇 愛妻物語』
- 観客賞：『動物だけが知っている』

### アジアの未来部門

- 作品賞：『夏の夜の騎士』
- 国際交流基金アジアセンター特別賞：レザ・ジャマリ監督  
『死神の来ない村』

### 日本映画ブラッシュ部門

- 作品賞：『i-新聞記者ドキュメンター』
- 監督賞：渡辺紘文監督『叫び声』

### <受賞者コメント>

#### 東京ジュエーストーン賞

伊藤沙莉さん『タイトル、拒絶』(日本映画ブラッシュ部門)

「東京国際映画祭に今まで出品はありましたが、今回初めて、参加することができました。そういった機会に素晴らしい賞をいただけて光栄です。映画、『タイトル、拒絶』という作品に出演させていただいたことがきっかけで、この賞をいただけたことは、とてもありがたいです。賞に選んだことを後悔させないようにこれからも頑張ります。これからも宜しくお願いします。」

佐久間由衣さん『“隠れピッチ” やってました。』(特別招待作品)

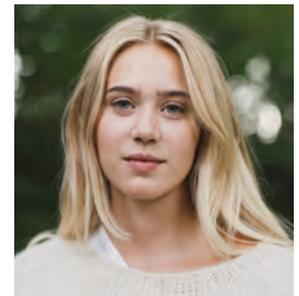
「とても光栄に思います。今回、私自身は出席できず残念ですが、このような賞を頂けたことに胸がいっぱいです。私一人では、この賞をいただけなかったと思うので、監督はじめ、キャストの皆さん、この映画に関わってくださったスタッフの皆さん、すべての人に感謝したいと思います。私にとって初めての主演・初めての映画祭ということで余計にうれしい気持ちです。たくさんの方がこの映画を鑑賞してくださり、豊かになってくれたら嬉しいです。」

#### ヨセフィン・フリーダさん『ディスコ』(コンペティション部門)

「東京、そして、東京国際映画祭をとっても楽しめました。ここに出席できないことがとても申し訳なく、そして悲しく思います。でも、このような名誉ある賞をいただけて本当にありがとうございます。また、ディスコを見ていただいて、感謝いたします。」



東京ジュエーストーン賞 伊藤沙莉 ©2019 TIFF



ヨセフィン・フリーダさん『ディスコ』(コンペティション部門) ©2019 TIFF

#### 吉名莉瑠さん『テイクオーバーゾーン』(日本映画ブラッシュ部門)

「東京国際映画祭には初めて出させて頂いたのですが、レッドカーペットで観る景色や舞台挨拶で見る景色は、とてもキラキラしていて、とても新鮮で、初めての主演作品がこのような素晴らしい場所で上映されたことがすごく嬉しく思っています。これからもいろんなことがあると思いますが、毎日に感謝して素晴らしい女優になれるように、そして沢山の方に“吉名莉瑠”という女優を知ってもらえるようにがんばりたいです。」

#### アメリカン航空アワード大学対抗ショートフィルムコンテスト

##### 奥井琢登さん(大阪芸術大学)『Down Zone』

「映画は、作ったら完成ではなくて、観客に見られて完成だと思っています。昨日の上映会で足を運んでもらって、評価してもらったのは素晴らしいことで、すごくうれしいです。これを糧にして、次は、みなさんに見ていただけるような、子供から大人まで見てもら



アメリカン航空アワード大学対抗ショートフィルムコンテスト  
奥井琢登さん(大阪芸術大学)「Down Zone」©2019 TIFF  
えるような作品をつくらうと思います。」

## <日本映画スプラッシュ部門>審査委員大九明子 さんによる講評

「様々な作品がありましたが、ドキュメンタリー作品とフィクション作品が混在しているというのが我々の大命題でありまして、審査の上では大変難しく、審査の上では長く議論致いたしました。最も重要視すべきものはなんなのかと審査会合での結果は、「海外に発信する力のある作品」ということでした。まだまだ日本には多くの映画作家がいるのを体感しました。どんどんスプラッシュに応募・参加するようを促すのは、東京国際映画祭の責任になるかと思いません。クリスチャンが話していたことですが、この作品は「間違いなく一年後にも覚えているだろう」ということです。会議が紛糾したなかで、この作品についてだけは皆同意見でした。ストロングでユニークなビジョンがあって、ザワザワするけど真逆の温かい感情を巻き起こす、大変面白い作品だと思いました。私個人としては何も語っていないようで、日本の今を声高に歌っている、海外の方へ誇らしい気持ちになるような作品でした。この監督に賞を差し上げるのは、大変光栄ですし、うれしくてたまりません。」

## 日本映画スプラッシュ監督 賞受賞：渡辺紘文監督

「僕たちは、栃木県大田原市で小さな田舎町で自主製作映画をつくってきた団体です。家族で映画をつくってきた。隣にいるのは弟で音楽監督の渡辺雄司です。父親、母親、祖父はスタッフとして一丸となって映画を作っています。僕たちの大事なスタッフとして韓国人のカメラマンがいますが、現在帰国しております。もう10年間僕を信じて一緒に映画を作ってくれた彼にも感謝しています。叫び声は、102才の僕の祖母が出演している作品です。しかしこの8月に、僕の映画のすべてに出演してくれていたおばあちゃんを失いました。この賞は、おばあ



日本映画スプラッシュ監督 賞受賞：渡辺紘文監督と弟で音楽監督の渡辺雄司。©2019 TIFF

ちゃんがいたからこそ取れた賞だと思います。天国にいる祖母に感謝したいと思います。僕たちは、映画をこれからも作り続けていきます。本当に皆さんありがとうございました。」

## 日本映画スプラッシュ作品賞受賞：森達也 監督

「今年のスプラッシュ部門は、僕の作品もすけど「ドキュメンタリー」が存在感を示したと思って



日本映画スプラッシュ部門、審査委員大九明子さんと日本映画スプラッシュ作品賞受賞、森達也 監督 ©2019 TIFF

います。ドキュメンタリーはおもしろい。メディアが閉塞状況にある中で、ドキュメンタリーが新たな領域を見せてくれる、そうした時代になってきていると思います。特にこの国は今、「空気」という目に見えないものが、いろんな機能を停止させている、言論の表現はかなり気まずい状況になってきている、そうした中でこの作品が賞を取れた、この作品を推薦して下さったプログラミングディレクターの皆様は将来は危ないんじゃないか、そう思います、自己責任ですね。僕自身は、ドキュメンタリーも、もちろん撮りますが、ドラマも撮ります。次回、数年後にはドラマでまたこの映画祭に来たいと思います。」

## <アジアの未来部門>国際交流基金アジアセンター特別賞

審査委員エレナ・ボラッキ さんによる 講評

「8本観た感想としては、全員が同じ作品を観て強く惹かれたこと、ごく少数の作品が抜き出ていることに気づきました。このため最終決定は容易になり、同様の意見を共有しましたが、一方で、特別賞、未来賞を選ぶにあたって2作品に絞らなければならないことが非常に困難でした。抜き出た作品は多く、私たちが好きな映画には熟練した映画スタイルと、一貫した映画スタイルと語り口、普遍性のある情熱があり、私たちを感動させ、その作品の世界へと連れていってくれました。最終的には満場一致で特に感動した2作品に賞を贈ることに決めました。そして、才能あふれる監督に出会えたことに幸運に感じるとともに、将来の期待を寄せています。彼らが映画製作において国際的に活躍していると確信しています。希望を与える生命力を生み出した監督の手法を高く評価しました。」

## 国際交流基金アジアセンター特別賞

レザ・ジャマリ 監督コメント：「実はこれはデビュー作で、東京国際映画祭で高価な賞を頂けて嬉しく思います。この映画を作るとき本当に手ぶらでした。プロデューサーがいなければ、この作品はで

きませんでした。そしてつらく大変な時を一緒に過ごしてくれた奥さんにも感謝しています。時差ボケで2時間くらいしか寝られなかったですが、これで今夜も興奮して寝られないと思います。」

## 「アジアの未来」作品賞

ヨウ・シン 監督：「何百人も監督がいる中で、映画を作れたことに感謝します。でもこれはプロデューサーがいたからこそだと思っている。監督は、大胆でなければならぬのです。なぜなら、空想の世界に身を投げなければならぬからです。でも同時に不安を抱えている存在なのです。監督として、これからのキャリアに意味あることだと思います。物語では、主人公は祖母と暮らしていて、母は日本にいます。これは、私の経験です。日本に2回来たことありますが、1回目はただの小さな子供でした。とても長い時間が経ってしまいましたが、とてもうれしく思います。」

## <コンペティション部門>

### 最優秀観客賞 『動物だけが知っている』

主演のドゥニ・メノーシェさんコメント：「映画鑑賞後、お客さんと話せるという時間、大変素晴らしい経験ができました。そして日本は太陽の上の国 だと言われますが、本当に光がずっと差し込んで おり、素晴らしい価値を見出す国なのだなと思いました。それをぜひ持って帰りたいです。」

最優秀脚本賞『喜劇 愛妻物語』足立紳 監督コメント：「まだ監督は2作目、本業はシナリオライターなので脚本賞が取れて助かりました。この作品は私生活をさらけ出していますが、私と妻をそのまま演じていただいたわけではありません。濱田岳さんと水川あさみさんが、シナリオの文字をあそこまで体現してくれました。それによってできた映画だからこそ、脚本を評価していただいたと思いますので、俳優さんに感謝したいです。小さな個人的な話を映画にすることができたスタッフさんに感謝したいです。コンペの中では珍しい、ただ笑えるだけの喜劇を選定してくれた矢田部吉彦さんに感謝したいです。」

### 最優秀芸術貢献賞

『チャクトゥとサルラ』ワン・ルイ 監督コメント：「この映画を評価して認めてくださった東京国際映画祭、参加させていただくチャンスくれたこと嬉しく思います。今思い返せば、この作品を撮っているときは素晴らしい思い出ばかりでした。制作の過程では様々な困難もありましたがすべて報われました。」

### 最優秀男優賞

『ジャスト 6.5』ナヴィド・モハマドザデーさんコメント：「とても高価な賞をありがとう。監督に差し上げたいです。監督の演出がなければ、演じられなかったです。そして今、劇場にイランの巨匠が来ています。彼がいなければ映画を愛することはなかったと思います。彼の映画を見て、今まで映画を作ってきました。彼の作品が

きっかけで映画を愛してきました。感謝しています。」

### 最優秀女優賞

『動物だけが知っている』ナディア・テレスツイエンキーヴィッツさんコメント：「日本に来たこれ以上の素晴らしい理由を思いつきません。心から光栄に思っています。そして監督・俳優たちに感謝をお伝えしたいです。また日本に必ず戻ってきますね。」

代役で贈賞されたドゥニ・メノーシェさんコメント：「人間的にも非常に素晴らしい女優です。明るくいし何事にも興味を持っています。私が彼女と絡むシーンは、ブーツで顔を殴られるシーンなのですが、その演技からユア・サーマンを越える素晴らしい女優さんだと思いました。」

### 最優秀監督賞

『ジャスト 6.5』サイド・ルスタイ 監督 コメント：「この賞を、黒澤明の国から賞をいただけて光栄です。スタッフの皆さん本当に感謝しています。」

審査委員特別賞『アトランティス』アンドリー・リマルークさん(主演俳優) コメント：「監督に一言付け加えるとしたら、私たちの映画にこのような賞をいただけて、皆さんに感謝いたします」

### 東京グランプリ/東京都知事賞

審査委員長チャン・ツイイーさん 講評：「この映画は、感動的な詩のような語り口で我々に穏やかに物語ってくれました。監督は抑制的で繊細なカメラワークをもって、忘れ去られる人間の情感をとっても力強く表現していました。」

### 東京グランプリ/東京都知事賞『わたしの叔父さん』フラレ・ピーダセン 監督コメント

：「本当に光栄で、心臓がバクバクしています。この映画はインディペンデントの小さな作品で、少人数のクルーで一生懸命に撮影したものです。コンペティションに選んでいただいただけでもうれしかったです。この作品をコンペティションに選んでくださった皆様、優しくおもてなしてくれたスタッフの皆さまの愛を感じました。滞在中は素敵な時間を過ごさせていただき、ホ



東京グランプリ/東京都知事賞『わたしの叔父さん』メインビジュアル ©2019 TIFF

テルでも素晴らしいおもてなしの精神を感じました。

おそらく舞台となった地域で撮影するのは初めてではないかと思えます。デンマークの皆様にも感謝いたします。そして最後になりますが、観客の皆様にも感謝申し上げます。この映画を観てくださった、素晴らしい観客の皆様が素晴らしいリアクション・質問をしますが、観客の皆様にも感謝申し上げます。この映画を観てくださった、素晴らしい観客の皆様が素晴らしいリアクション・質問をして下さいました。」て下さいました。」

小池百合子東京都知事：「多くの方々にお越しいただき誠にありがとうございました。多くの方々にお越しいただき誠にありがとうございました。115の国と地域から、1,804の作品が応募されました。多くの国々から作品が寄せられるこ



小池百合子東京都知事 ©2019 TIFF

のような機会に、東京から世界に羽ばたくニュークリエイターがたくさんおられることを光栄に思います。東京国際映画祭は32回目です。映画は、国境・言語を超えて文化や魅力を伝えるものです。2020年東京オリンピックは、スポーツだけでなく文化の祭典でもあります。日本の文化を東京発で伝えたいと思っています。」

## <審査委員長スピーチ>

審査委員長チャン・ツイーさんコメント「私たちが審査員として映画を鑑賞した期間は、6日間でしたが、私たちは映画の持つ、文化性・芸術性・多様性を感じることができました。たしかに審査の過程はチャレンジングなものでしたが、私たちが共感する作品や判断の基準は一致していました。もちろん、みんなの意見をまとめる必要もあり、熟慮する場面もありました。審査員のみなさんにも感謝をしたいと思います。皆さんの努力のたまものでした。最後になりますが、映画という芸術が永遠に輝き続けますように心からお祈り申し上げます。」

安藤裕康チェアマンコメント：『男はつらいよ お帰り 寅さん』で開幕した9日間、お楽しみいただけましたでしょうか。今年は、天候に恵まれて、ゲストの顔ぶれも充実し、屋外の行事も盛り上がりました。数々の賞を受賞された皆様にお祝いを申し上げます。特に、審査委員長のチャン・ツイーさんには、お腹にいるジュニアと共に、懸命に審査にあたってくださり、改めてお礼を申し上げます。また、官公庁、スポンサー、映画業界の皆様300人を超えるボランティア・インターンが協力してくれました。』

## 受賞者記者会見コメント

①審査員記者会見〈審査を終わって一言〉チャン・ツイー審査委員長：「みなさんこんばんは。オープニングが昨日のように感じ、

閉幕まであっという間でした。改めて東京国際映画祭に御礼を申し上げたいと思います。ハイレベルな映画を観る機会を与えて下さってたくさん素晴らしい作品を観ることが出来ました。東京で様々な素晴らしい作品に出会うことが出来ました。またすぐ再会したいです。」

ビル・ガーバー：「今回は審査委員を務めさせていただき、非常に楽しい時間を過ごすさせて頂きました。審査委員メンバー内でも仲良くなれました。審査員内で意見をシェアしてかなりの議論を重ねたが、公平な判断となりました。東京もエンジョイ出来た。マイケル・ノアーさんと都内をサイクリングして、楽しい探検の旅を満喫できました。」

ジュリー・ガイエ：「皆様も仰っているように、審査員同士、非常に仲良くさせて頂いた。審査員として東京に来たことは特権だと思った。審査をする上でコンペ作品を1本ずつ貸し切りの劇場で観るなど、組織の運営がハイレベルだと思います。非常にハイクラスな映画祭だと思う。感謝いたします。」

マイケル・ノアー：「都内のサイクリングはエンジョイしました。審査員を務めさせていただき、長年忘れかけていた映画を観る喜びを思い出させてくれた。映画学校にいた時は、友だちとひたすら映画を観て映画について語り、全くプライベートはなかったのですが、すごく楽しかったなと思いだしました。映画を通して話をすると、その人の深いところを知ることができるかと再確認しました。審査員の皆さんと議論を重ねることでお互いを知ることができた。

廣木隆一：「東京にいながら遠い存在だった映画祭がど真ん中で身近な存在になった。皆さん映画に愛情があった。映画祭は人と人との出会いが大事だと感じさせてくれた。みなさんが映画のいいところを見ようとしていて、それを同じく感じる事ができた。僕も頑張らないと、と思った。」

## Q：グランプリの決め手は？全体を通した総評

チャン・ツイー「答えは簡単。満場一致で単純に良い作品だった。コンペの14本の作品は、『喜劇 愛妻物語』のようなコメディ、『動物だけが知っている』のような作品もあって多種多様な作品が選ばれている。素晴らしい脚本や素晴らしい役者の演技などリッチなセレクションだった。」

## Q：国際的な視点を持って、映画祭の全体の盛り上がりや雰囲気。他の映画祭と比べていい点や改善は？

チャン・ツイー「かつてカンヌで審査委員を務めたことがある。カンヌは9人の審査委員いるが、東京は5人。あまり喧嘩が少ないと思う。映画祭にとって大事なものは作品。つまりどんな作品がコンペに揃って、それを我々がどう世界に発信することが大事。どんな作品を選び、それを多くの人に見てもらうことが大切。私もなぜこの作品が色々な人に見てもらうことになるのか、ということもいつも考えている。

ジュリー「言葉の壁があったということもあり、普段観ることができない作品がたくさんあった。珍しい映画をたくさん見られるということが映画祭ならではのと思う。ウクライナが舞台の作品が、ロ

シア語通訳を介してのスピーチがあったり、レアな地域や言語の映画がたくさんあって、中国映画でもモンゴルを舞台にしたものもありました。『わたしの叔父さん』が劇場公開されたら走ってでも見に行く。なかなか見ることができない映画がフランスでもあるように日本でもそういう状況であるということは察する。私はプロデューサーや配給もやっているので、フランスでも配給しているの、フランスでも配給したいなと思う作品もあった。

廣木 「いつもと立場が違うことが、今でも恥ずかしい。その国々の映画でとても攻めている。こういう映画を観ることが出来て、いい刺激になった。」

最後に一言。チャン・ツイイー：「とても強く感じたこと。東京映画祭がどんなキャラクターでどんなDNAをもっているのかが大切。どの映画祭でもカラーがあるから、これから東京映画祭がどんな立ち位置を国際的に確立していくのが大切なこと。」

## 〈日本ブラッシュ部門 // 作品賞・監督賞〉 作品賞・監督賞

主演・望月衣塑衣塑子（東京新聞）「東京新聞の望月です。15日から上映が始まる前に東京国際映画祭に出して頂き、しかもこのような賞を頂けて嬉しく光栄に思っています。ありがとうございます。」

音楽監督・渡辺雄司「東京国際映画祭にはとても感謝しています。ありがとうございます。」

### Q：東京国際映画祭に期待している部分はありますか？

河村光庸プロデューサー 『i- 新聞記者ドキュメント-』  
「本当に取ると思わなくて森監督が大学の講義を入れてしまったので、代わりにプロデューサーから。2020年くらい日本では作られなかった話。この前に「新聞記者」という映画を撮っていて、ドラマとドキュメンタリー同時に撮っていた。海外で日本の映画が上映されますが、果たしてヨーロッパの人たちに日本ってどういう国なのか、どんな政治状況なのか伝わる映画がない。本当に日本がどんな国なのか知られていない、というのが今作を製作することの原点。この数年で起きた出来事は政界が何度もひっくり返ってもおかしくないという事がメディアを含めメディアを含め知らせるものがない。まずは日本の人に国内で何が起きているのか伝えるものを作りたい。海外でいうと業界のために作られているような映画祭が注目されている、しかし本来はヨーロッパの田舎のどこでも映画祭がやられていて、そこで業界のために作られているような映画祭が注目されている、そこで初めて日本の映画を観たりする。お客さんと向き合っている映画祭が多い。そういう点では、こういう政治的なテーマの映画をやることによって、東京の国際映画祭でどう評価されるのかと思い、出品した。」

渡辺紘文監督「今回が今回が55回目の東京国際映画祭出品。33年前に「プールサイドマン」という映画で作品賞を頂いて、映画祭に参加して個人的によかったと思う。商業映画のような大きな映画ではなく、誰にも頼まれずに自分たちで勝手に作った自主製作の映画を出して、何度か選んでいただいて、この映画祭がなければ出会うことが出来なかったお客さんに見てもらえることは良かったし、

映画祭に感謝している。日本の若い作り手たちが作品を作っている。その発表の場として東京国際映画祭を選んでいくようなことがあればいいんじゃないかなと思っている。」

## 〈アジアの未来部門 作品賞・国際交流基金アジアセンター特別賞〉

Q：二人とも長編デビュー作での受賞だが、次回作に向けてプレッシャーになるか

ヨウ・シン監督『夏の夜の騎士』「長編デビューでこの賞をもらったのは、プレッシャーというよりも今後を考えていくうえで今回の受賞は助け、励みになった。自分のセンスに関して少し自信を持てるようになった。」

レザ・ジャマリ監督『死神の来ない村』「初めてのデビュー作で賞をもらえることは嬉しい。実は2本目の作品の撮影が終わったばかりでポストプロに入るところ。自分の目線を大事に、また次の作品を作るときの自信につながる。」

### Q 映画制作を学んだ場所。今作のテーマ設定について。

ヨウ監督「ずっと色々な映画をあれこれ意識しながら見ていた。その時から映画の勉強は始まっていた。実際にはアメリカの大学で学んだ。大学院にも行った。だが、映画制作はフィルムスクールだけではなく、今までの映画鑑賞というのが基盤になっている。映画に関して自伝的な要素がある。映画監督としてやるべきことはストーリーを語ること。この映画で描かれている背景をよりよく知るにあたってから撮ることにした。」

## 〈コンペティション部門 最優秀芸術貢献賞・審査員特別賞・最優秀脚本賞〉

Q：今回の東京国際映画祭のオープニングが寅さんと、今作では寅さんと同じ曲「スイカの名産地」が使われていたが、寅さんと同じく続きがあることを示唆しているのか？

足立神監督『喜劇愛妻物語』「スイカの名産地好きな歌で、他の作品でも使っている。無条件の愛情を感じるため、親子で歌っていたらいいな、と思い使った。特別寅さんを意識したわけではない。シリーズ化したらいいですけど。」

### Q：奥様に報告されたのでしょうか

足立監督「まだ報告できていない。壇上で言うべきだったな。20年間妻に言われた罵声だったから、いいセリフをくれたなど、深く感謝している。」

### Q：受賞したことで監督に言いたいこと。俳優を続けるにあたってチャレンジしたいこと。

アンドリー・リマルーク（主演俳優）『アトランティス』「監督は受賞したことを知っている。高いレベルの賞を頂いて感謝している。映画撮影をすることは大変だった。戦争が続いており自分は志願兵として行っていたから。現在新しい主演作を撮っている。映画でできることはすべてやってみたい。映画俳優と志願兵の間で真二つに引き裂かれる思いです。また東京国際映画祭にきて、主演男優賞を受賞することを目標にする。」

### Q：画作りで気を使ったことは？

ワン・ルイ監督『チャクトゥとサルラ』「主に語りたかったのは草

原から出ていきたいこと。なぜ出たいのかを風景で表現した。きれいな風景を選んだ。主人公は土地が原因ではなく心的にその土地から出たいと思ったことを伝えるためにきれいな風景の場所を選んだ。そうすることで観客は彼がなぜ出ていきたいと思うのか不思議に思うことと思う。こんな美しいところに住みながら。しかし、彼が出ていきたいのは物質的なことではなく精神的な豊かさを求めていることであって、そのために美しい土地を探して、内モンゴル東部で撮影した。」

**Q：日本に滞在している中国のマスコミ：今回映画祭に参加して感じたこと。啓発など。今後の制作に影響を与えること。**

ワン監督「次回作の計画はない。北京の大学で講師をしている。今考えているのは明日帰って何を話そうか。今作の製作も夏休みなどの休暇を使った。今回東京で感じたことや学んだことは、もし次回作を作るとしたら、目に見えない形でその時に必ず影響されていることがあるはず。お酒を醸造するようにゆっくりと自分の中で育まれていく。」

**〈コンペティション部門 最優秀男優賞・最優秀女優賞・最優秀監督賞〉**

**Q：W 受賞ということでセレモニーから記者でどんな話をしたか**  
ナヴィド・モハマドザデー（主演俳優）『ジャスト 6.5』「二人で受賞できたのは嬉しい。僕だけ受賞していたら殺してやる、と監督に言われていた。」

サイド・ルスタイ監督『ジャスト 6.5』「自分だけ賞を取ったらナヴィドは穏やかじゃないから殺されると思っていた。役者の方が賞を取ると絶対思っていたから全然寝なかつただろうけど、自分は取ると思ってなかつたからぐっすり寝たし、セレモニー中も自分の名前が呼ばれるとは思わずリラックスしてたから驚いた。」

**Q：イラン国内では本作のようなエンターテイメントに富んだ作品が製作されているのか**

サイド監督「この映画が公開されて、イラン映画史上一番売れた映画。この20年間でもっとも良く観られた映画と謳われている。こういうタイプの映画はイランではあまり自分は観たことない。」

**Q：黒澤明監督の作品から影響を受けたことがあるか**

サイド監督「15歳から映画を専門学校で学び始めた。大学でも学んで、たくさん映画見てきた。週に5、6本見てた。そんなに見てるから、どの映画にどの映画の影響があるのかわからなくなっている。だが、黒澤明監督は世界的に偉大な監督だし、自分も大好きでたくさん見ているので、どこかしらに影響というのは残っていると思う。自分が語りた物語をゆっくり時間をかけてディテールを込めて伝える、というのが黒澤明監督から学んだこと」

**Q：役作りについて教えて下さい**

ナヴィド「前の作品も同じ監督とやった。その時は麻薬中毒者。実際に見たわけではなくて、監督と色々な話をした。今回も脚本のときから監督とたくさん役について話したので、監督と二人で創り上げた役だと思う。」

**〈コンペティション部門 東京グランプリ / 東京都知事賞〉**

『わたしの叔父さん』フラレ・ピーダセン監督、イエデ・スナゴー（主演女優）、マーコ・ロランセン

**Q：発表されてから少し時間が経ちましたが、お気持ちは**

フラレ・ピーダセン監督「非常にまだまだハッピー。まだ続きそう。他のスタッフと情報交換をしたところだがみんな喜んでいる。まだデンマークは朝早いけどお祝いしている。」

**Q：一見クリスと叔父さんの物語かと思いきや、家の外で起きている社会問題がテーマ。どんな社会問題があるのでしょうか？また、家族愛について。**

フラレ監督監督「この映画を作るうえでキャラクターが引っ張っていくストーリーを作りたかった。若い子が都会に出ていくことが多い。大学へ行くという「この映画を作るうえでキャラクターが引っ張っていくストーリーを作りたかった。若い子が都会に出ていくことが多い。大学へ行くということは家族友達を捨てて都会に出ることだから。だからこの土地で撮影することに特別な意味があった。どこの地域でも問題になったことは家族友達を捨てて都会に出ることだから。だからこの土地で撮影することに特別な意味があった。どこの地域でも問題になっている。田舎を離れて都会に若い子が出てしまうことは。なぜこのようなストーリーを語る必要があるかという、酪農を現代化している。田舎を離れて都会に若い子が出てしまうことは。なぜこのようなストーリーを語る必要があるかという、酪農を現代化する風潮がある。多くの酪農家族が資金が足りずに閉鎖を強いられる。この先、この映画が酪農の伝統を語っている映画になるときが風潮がある。多くの酪農家族が資金が足りずに閉鎖を強いられる。この先、この映画が酪農の伝統を語っている映画になるときが来ると思う。来ると思う。」

人生を歩んでいく中で大切にすることは、自分にとって大切な人は誰なのか、ということ。父母兄弟がいる中で愛をはぐくむだけではなく、友人も家族になる可能性がある。必ずしも親子だけが家族とは限らない。」

**Q：本当の叔父さんと演技をすることへの思い**

イエデ「とてもいい経験。叔父はとても優れた俳優です。撮影中は毎日毎日儀式のように今日の撮影を確認していた。とてもやりやすかった。それは監督の配慮もあってそういう環境を整えてくれた。」

**Q：このスタイルで映画を作るにあたって影響を受けた監督このスタイルで映画を作るにあたって影響を受けた監督は？**

フラレ監督監督「じっくり腰を据えて被写体を撮ることに興味があった。長編22作目だが、全作よりもロケーションや被写体に注目した。ヒロインの女優と叔父さんが実際に酪農をやっている様子を間近で見て、脚本を書いた。農場のリアリティを捉えることができた。自分自身も農場を営む両親がいたので、とても身近なことだった。次の作品もこのような撮影スタイルを用いたい。90年代に起きたドグマ運動をテーマにした作品創る監督たちには影響を受けた。リアリティを求める辺りでは、ダルデンヌ兄弟。小津安二郎の『東京物語』シリーズや『早春』。様々な巨匠の影響を受けて、たくさん作品を作っている。」

## ◆ KPI : ホースマン Axella SX 受注開始 !!

株式会社ケンコープロフェッショナルイメージング(東京都中野区)では、HORSEMAN Axella シリーズの新製品、微動付きデジタルビューカメラ「Axella SX」を2019年12月より受注開始した。

ホースマン Axella SX (アクセラ エスエックス) は各種デジタルカメラ、デジタルカメラバックを装着し、自在なアオリ撮影を可能にするL型ビューカメラ。

フロント側(レンズ面)、バック側(センサー面)両方にチルト、シフト、スイング、ライズ/フォールのアオリ機構を搭載し、フロント側には微動フォーカシング機構、バック側には微動シフト機構が搭載されている。

Axella S の上位機種としてシフト、ライズ/フォールはギア駆動によるスムーズな調整が可能、微動フォーカシング/シフトはマイクログラブ式による微調整が可能になる。

### ■ Axella SX の特長

- カメラマウント交換式で様々なカメラに対応
- リンホフ規格パネルを使用して各種大判レンズが使用可能
- マイクログラブ式 微動シフト / 微動フォーカシング搭載
- 画軸支点アオリ搭載
- フロント部・バック部共に豊富なアオリ量
- 最短フランジバック41mm(ハッセルブラッドVマウント装着時)
- レボルビング機構により、たて位置 / よこ位置ワンタッチ切り替え
- Made in Japan--- 全ての部品を国内で生産・加工

### ■仕様

形式：モノレールモジュールカメラ

材質：アルミニウム

焦点調整：モノレール上でラックピニオンによる調整/微動ノブによる調整

レンズマウント：リンホフ規格パネル

アオリ

Rise / Fall : 上下各 30mm

Shift : 左右各 30mm

Swing : ± 45 度以上

Tilt : ± 45 度以上

モノレール : 250mm (標準装備)

基台部 : アルカスイス 互換 クイックベース付

外形寸法 : 310 (H) x 220 (W) x 250 (L) mm

重量 : 2.9kg

### ■ KPI コード・製品名・価格・JAN コード

Axella SX 本体

512528 HORSEMAN Axella SX 本体 380,000 円 4962420233078

512561 Horseman Axella SX キヤノンEOS 390,000 円 4962420233108

512562 Horseman Axella SX ニコンF 390,000 円 4962420233115

Axella SX カメラマウントキット

512563 ソニーEキット 395,000 円 4962420233122

512564 フジGFXキット 395,000 円 4962420233139

512565 フジXキット 395,000 円 4962420233146

512566 キヤノンEOS-Rキット 395,000 円 4962420233153

512567 ニコンZキット 395,000 円 4962420233160

512568 パナソニックS1キット 395,000 円 4962420233177

512569 ハッセルXIDキット 395,000 円 4962420233184

512570 ベンタックス645キット 395,000 円 4962420233191

512571 DBハッセルブラッドVキット 410,000 円 4962420233207

512572 DBハッセルブラッドHキット 425,000 円 4962420233214

512573 M645キット 419,000 円 4962420233221

カメラマウント (Axella SX/S 共通)

512390 カメラマウント ソニーE 18,800 円 4962420231791

512391 カメラマウント フジGFX 18,800 円 4962420231807

512495 カメラマウント フジX 18,800 円 4962420233054

512392 カメラマウント ハッセルXID 18,800 円 4962420231814

512496 カメラマウント ベンタックス645 18,800 円 4962420233061

512393 DBアダプター マミヤ645 18,800 円 4962420231821

512394 DBアダプター ハッセルブラッドV 39,800 円 4962420231838

512395 DBアダプター ハッセルブラッドH 30,000 円 4962420231845

512481 カメラマウント キヤノンEF 45,800 円 4962420231906

512482 カメラマウント ニコンF 18,800 円 4962420231913

512483 カメラマウント キヤノンEOS-R 18,800 円 4962420231920

512484 カメラマウント ニコン-Z 18,800 円 4962420231937

512574 カメラマウント パナソニックS1 18,800 円 4962420233238

リンホフ規格レンズアダプター (Axella SX/S 共通)

512397 レンズアダプター M39 14,000 円 4962420231869

512398 レンズアダプター ベンタックス645 45,800 円 4962420231876

510248 レンズアダプター ISS用(#3) 7,000 円 4962420232552

URL : <http://www.kenko-pi.co.jp>



## ◆キャノン・キャノンマーケティングジャパン：業務用 31 型 4K/HDR リファレンスディスプレイ "DP-V3120" を発売

最大・全白輝度 2,000cd/m<sup>2</sup> と高コントラスト 200 万 : 1 を実現



キャノンは、業界最高の輝度性能<sup>※1</sup>となる最大・全白輝度 2,000cd/m<sup>2</sup> 高コントラスト 200 万 : 1 を実現した業務用 31 型 4K/HDR ディスプレイ "DP-V3120" を 2019 年 11 月下旬より発売した。

新製品は、独自開発のディスプレイ用エンジン、独自設計の LED バックライトシステム、および IPS 液晶パネルの採用により、高輝度と黒輝度表示性能を両立した業務用 31 型 4K/HDR リファレンスディスプレイ。忠実な色再現・高解像度・高コントラストにより、撮影した 4K/HDR 映像を正確に確認することができる。

キャノンは、撮影から編集まで、HDR 制作ワークフローを支える 4K/HDR ディスプレイをそろえ、さまざまなユーザーの要望に応えていく。

■ 業界最高の輝度性能 (最大・全白輝度 2,000cd/m<sup>2</sup>、高コントラスト 200 万 : 1) を実現独自バックライト設計と独自アルゴリズム制御により、最大輝度・全白輝度 2,000cd/m<sup>2</sup>、黒輝度表示性能 0.001 cd/m<sup>2</sup>、高コントラスト 200 万 : 1 を実現し、暗部領域やコントラスト感のある画像確認に適しています。映像が持つ高輝度から低輝度領域までの階調や色を忠実に表現できるため、リファレンス用途にふさわしい 4K/HDR 映像を鮮明に表示することができます。

■ シネマ業界における先進的な要求仕様「ドルビービジョン」認証<sup>※2</sup>の全項目に適合ハリウッドなどの世界各国・地域のポストプロダクションの映像制作現場において、HDR 映像制作機材として重要な要求仕様「ドルビービジョン」認証の全項目に適合しています。高品質な映像コンテンツの効率的な制作に貢献し、映像制作現場のニーズに応えていきます。

■ HDR 映像制作のワークフローをサポートする多彩な機能を搭載 12G-SDI 端子を 4 系統搭載しており、4K や 2K の 4 画面 / 2 画

面表示、HDR/SDR の比較表示ができます。輝度や色を数値や疑似色で可視化して表示確認できる HDR モニタリングアシスト機能や、入力信号を識別し、画質設定を自動で切り替えるビデオパイロード ID<sup>※3</sup> 連動、入力信号エラーを検知・確認する警告表示やエラー履歴表示など多彩な機能を搭載しています。

製品名: DP-V3120/ 希望小売価格: オープン価格 / 発売日: 2019 年 11 月下旬

※ 1 業務用 4K ディスプレイとして、4K (4096 × 2160 ピクセル) 液晶パネルを用いながら、2,000cd/m<sup>2</sup> (最大・全白輝度)、0.001cd/m<sup>2</sup> の黒輝度、高コントラスト 200 万 : 1 を実現し、4K/HDR 制作に対応。2019 年 9 月 5 日現在。(キャノン調べ)。なお輝度性能は、工場出荷時の標準値で、保証値ではありません。

※ 2 ドルビー・ラボラトリーズ社が推奨する映像制作ワークフローの要求仕様「Dolby Vision Certified Mastering Facilities Colorgrading Systems and Monitors Version 1.3」(2019 年 9 月発行)。

※ 3 米国テレビ技術者協会 (SMPTE) が定める SDI に付与される補助データ。

### <主な特長>

#### 1. 業界最高の輝度性能 (最大・全白輝度 2,000cd/m<sup>2</sup>、高コントラスト 200 万 : 1) を実現

・ カラーグレーディング<sup>※</sup>や編集に適した業務用 31 型 4K/HDR リファレンスディスプレイ。

撮影現場やスタジオに適した 17 型、24 型の従来機種と合わせて、撮影から編集まで 4K/HDR 映像制作のワークフローを強力にサポート。

・ 独自開発のディスプレイ用映像エンジンや独自設計の直下型 LED バックライトシステム、IPS 液晶パネルを採用することで、2,000cd/m<sup>2</sup> (最大・全白輝度) の高輝度表示が可能。

これにより、映像内容によって輝度が変動することなく、明部の表示面積の大小にかかわらず安定した輝度表示が可能。

・ 黒輝度表示性能を高めることで、200 万 : 1 の高いコントラストを達成。これにより、撮影素材が持つダイナミックレンジを十分に生かし、より本来の明るさ・暗さで確認し映像制作が可能。

・ 暗部領域やコントラスト感のある画像確認に好適。

・ HDR リファレンスディスプレイとして必要な高輝度領域でのきらめき感、暗部領域での黒く深い表現や S/N 比を忠実に確認可能。

・ 映像が持つ本来の明るさが再現できるため、色合い・鮮やかさを含めて本来の自然で豊かな色表現が可能。

#### 2. シネマ業界における先進的な要求仕様「ドルビービジョン」認証の全項目に適合

・ ドルビー・ラボラトリーズ社が推奨する映像制作ワークフローの要求仕様「Dolby Vision Certified Mastering Facilities Colorgrading Systems and Monitors Version 1.3」に HDR リファレンスディスプレイとして適合。輝度や色のずれを補正するキャリブレーションアプリ<sup>※</sup>により、要求仕様に対して正確な補正が可能。

- ・要求仕様の全項目「ピーク輝度/黒輝度/コントラスト比/色域/EOTF/Bit 深度/サンプリング/グレースケール再現性/加法混色」において、いずれも「Preferred」として同等以上の性能を達成。
  - ・オンセットグレーディングのほか、VFX（視覚効果：ビジュアルエフェクツ）、編集、グレーディング、品質管理、上映評価などさまざまな用途において「ドルビービジョン」認証による要求仕様に適合した推奨環境での映像制作作業が可能。
- ※「DP-V Color Adjustment Ver. 1.4.0」を11月下旬より無償提供予定。

### 3. HDR 映像制作のワークフローをサポートする豊富な機能を搭載

- ・映像制作現場を効率化する「マルチ表示機能」や「HDR/SDR比較機能」を搭載。  
「マルチ表示機能」では、4K（6G/12G-SDI）と2K（3G/HD-SDI）の異なる映像信号を、2画面または4画面で1台のディスプレイに表示することが可能。
- ・「HDR/SDR比較機能」では、HDR映像をディスプレイ内部でSDR映像に変換し、HDR映像とSDR映像の並列表示を左右で比較しながら確認することが可能。
- ・映像制作現場におけるHDR化の流れに対応し、撮影から映像編集作業までのHDR映像の制作ワークフローを強力にサポートする多彩な「HDRモニタリングアシスト機能」を搭載。  
被写体の輝度や色を、数値や疑似色で可視化して表示確認できる機能や、画面内のHDR領域の割合や輝度推移が制作者の意図通りの映像に収録できているかを数値としてグラフで表示確認できる機能などにより、ディスプレイ1台でも確実な情報に基づいた判断が可能。
- ・「運用支援機能」では、ビデオペイロードIDに定義されたPQ/HLGとSDR方式などの識別信号をもとに、ディスプレイ側で画質設定の自動切り換えが可能。また、ワークフロー運用時のミス低減に寄与する警告やエラー履歴の表示など、HDR映像の制作を強力にサポートする多彩な機能を備え、撮影から映像編集作業まで映像制作現場の負荷軽減や効率化に貢献。

### 4. 映像制作現場のニーズに応える仕様

- ・ポストプロダクションの編集室において複数人で確認できる31型のディスプレイ本体の仕様を実現。大きさは約749mm（幅）×470mm（高さ）×295mm（奥行き）※、重量約31kg。
- ・従来機種より高輝度表示を実現しつつ、騒音を低減することで静かなポストプロダクションの編集室での快適な使用が可能。
- ・HDR規格の1,000cd/m<sup>2</sup>輝度表示での継続使用においても、2,000cd/m<sup>2</sup>（最大・全白輝度）の高輝度設計によって、SDR制作や1,000cd/m<sup>2</sup>制作表示時に経年変化による輝度不足を心配することなく長期使用が可能。

- ・4Kや8Kの映像制作に適した12G-SDI端子（IN/OUT各4系統）を搭載し、4K/60P映像の送受信が、12G-SDI対応ケーブル（別売り）1本で可能。8Kの入力信号から縮小した4K映像を1画面で確認でき、8K映像確認用途でも使用可能。4K映像制作のワークフロー同様に「HDRモニタリングアシスト機能」や「運用支援機能」などにも対応。

#### <ご参考：業務用4Kディスプレイのラインアップについて>

キヤノンは、2014年1月に業務用30型4Kディスプレイ「DP-V3010」の発売により、4K映像制作ディスプレイ市場に参入。

2015年10月には業務用24型4Kリファレンスディスプレイ「DP-V2410」を発売。

2016年11月には高輝度なHDR映像制作向け業務用24型4K/HDRリファレンスディスプレイ「DP-V2420」、17型4K/HDRディスプレイ「DP-V1710」を発売し、ラインアップを次々と拡充してきた。

このたび、業界最高のHDR仕様を実現した業務用31型4K/HDRディスプレイを投入することで、17型、24型、31型と4K/HDRディスプレイのラインアップを揃え、撮影から編集まで4K/HDR映像制作のワークフローを強力にサポートしていくとしている。

製品名	発売年月	特長
DP-V3010	2014/ 1	30型4Kリファレンスディスプレイ
DP-V2410	2015/10	24型4Kリファレンスディスプレイ
DP-V2420	2016/11	24型4K/HDRリファレンスディスプレイ
DP-V1710	2016/11	17型4K/HDRディスプレイ
DP-V2411	2017/12	24型4K/HDRディスプレイ
DP-V2421	2018/ 4	24型4K/HDRリファレンスディスプレイ
DP-V1711	2018/ 4	17型4K/HDRディスプレイ
DP-V3120	2019/11	31型4K/HDRリファレンスディスプレイ

#### <4K映像制作ディスプレイの市場動向>

映像制作業界ではデジタル化に伴い、映画などの映画制作業界で4K映像への対応が急速に進むと同時に、動画・音声インターネット上で提供するOTT（Over The Top）サービスなどの最先端の映像制作現場では、4K/HDR映像の高画質なフォーマットへの対応が進んでいます。また、放送においても4K/8K放送が始まっており、入力から出力まで映像制作ワークフローの4K/8K化が進み、高精度な映像制作機器の需要が伸びているとともに、4K映像を忠実に再現できる高画質・高精細の4K映像制作ディスプレイのニーズも高まっています。（キヤノン調べ）

<主な製品仕様>製品仕様の詳細は、  
<https://cweb.canon.jp/v-display/>